

中小企業景況調査結果 (平成28年1~3月期)

中小企業の業況は、マイナス幅が拡大し悪化している

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成28年1~3月期実績と平成28年4~6月期見通しについての調査結果(回答数86社、回答率86%)をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

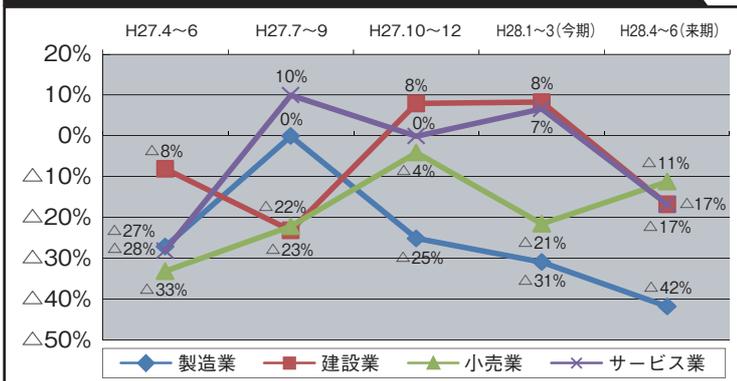
全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期▲5%から▲9%に低下した。業種別にみると、製造業が▲25%から▲31%に低下、小売業が▲4%から▲21%に低下した。建設業は、前期8%から変動はなかったが、来期は▲17%と大幅に悪化する見込みである。サービス業は、0%から7%に上昇したが、建設業同様来期は▲17%に悪化の見通しで不透明感が強まっている。従業員数は全産業で1%から▲5%に低下し、中でも製造業は0%から▲18%に悪化し、人手不足が深刻化している。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の13%で特に変化は見られなかったが、来期は4ポイント上昇し17%が実施予定で、車両運搬具や建築機械への設備投資が主に計画されている。経営上の問題点については、全業種で『需要の停滞』が挙げられており、今期も解消されていない。製造業は、「製品ニーズの変化への対応」、建設業は、「下請業者の確保難」が新たな問題点となっている。

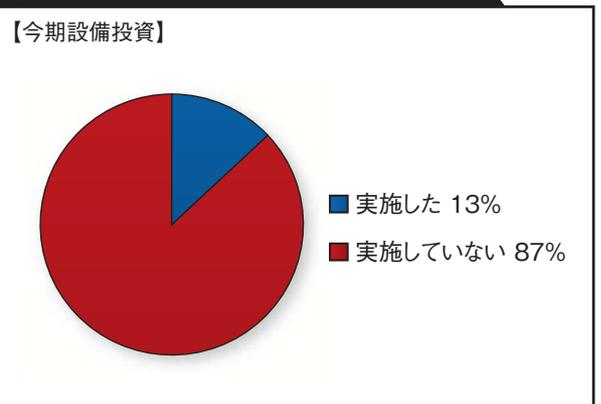
◆業況DI値(今期の状況)

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△9%	↘	△10%	↘	△8%	↘	25%	↘	△10%	↗	△5%	↘
製造業	△31%	↘	△46%	↘	△31%	↘	54%	↘	△38%	↘	△18%	↘
建設業	8%	→	8%	→	0%	↗	25%	↗	△8%	→	8%	↗
小売業	△21%	↘	△14%	↘	△11%	↘	21%	→	△18%	→	4%	↘
サービス業	7%	↗	6%	↗	3%	↗	10%	↘	13%	↗	△10%	↘

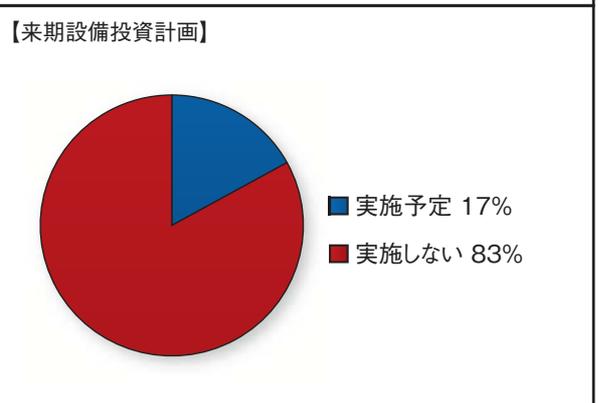
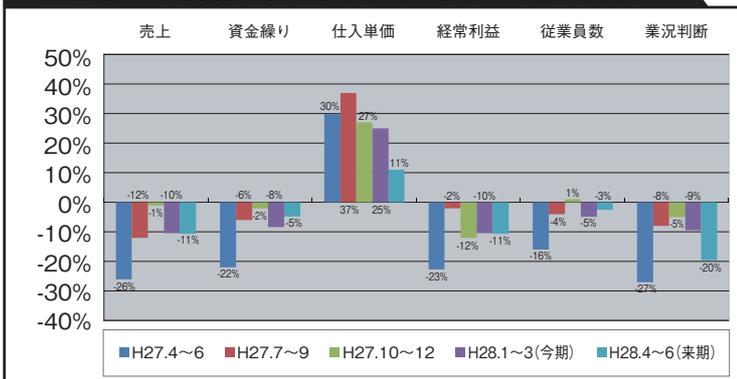
◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)



◆新規設備投資(今期実施・来期計画)



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 22.2%	官公需要の停滞 16.1%	購買力の他地域への流出 14.9%	店舗施設の狭隘・老朽化 15.6%
2位	製品(加工)単価の低下・上昇難 19.4%	民間需要の停滞 16.1%	大型店・中型店の進出による競争の激化 12.2%	需要の停滞 11.7%
3位	製品ニーズの変化への対応 11.1%	下請業者の確保難 12.9%	需要の停滞 12.2%	利用者ニーズの変化への対応 11.7%

※DIとは、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。